

堂本光一 [SHOCK] 1000回 乗り越えた森光子さんの死と戦友の引退 享年92

福山 さえないADに実に素晴らしい気配り

歌広場 淳の金爆イケメンCAFE 独占生潜入撮

相葉 冠番組決定で 志村けん 精密検査前を直撃

エビちゃん妹 双子で未熟児 入院 看護師からアパレル

大塚 白血病再発は孤独外食三昧

# 週刊女性

4月2日号 特別定価370円 主婦と生活社

V.I. BIGBANG 2つの魅力を撮り下ろし!

還暦目前にバツ2になった彼女だが、決着を急いだのには理由があった



総裁決定で大騒ぎしているけど日本銀行ってなに?

## 卵子と精子の最新事情

卵子バンクってどんなところ? 卵子の老化は防げる? 精子の値段は?... ほか不妊夫婦必読の最新実態々々

10ページ徹底研究



榎太一 超売れっ子アナに1日密着

ほうれい線、はこうして消す! オバ顔バスターズ

おもしろおしい 大集合 名のお財布で見せ

話題騒然 ゴールデンでコンドームのつけ方 うちの子に見せたい NHK Eテレ

袋どじ 男を操る秘密のモニテテテ

進級・進学 皇室春物語 愛子 眞子 佳子 悠仁

大爆笑!? キャッチフレーズ 今昔物語 明菜、聖子、伊代、井森、山瀬からもモクロ、壇蜜まで

侍ジャパン WBC妻 内助の戦い

行き場のない老人 介護業界新たな挑戦

★井端弘和&河野明子★内川聖一&長野翼★前田健太&成嶋早穂★田中将大&里田まい

短期集中連載  
「行き場の  
ない老人」



シリーズ最終回

どうなる!? 高齢者の  
“終の住処”

# 日本の高齢者を支えるのは誰か?!

## 介護業界の新たな挑戦に注目

家族のあり方、貧困、格差など、複雑な要因が絡まって深刻化する、少子高齢化、問題。高齢者の「終の住処」の確保は緊急課題だ。試行錯誤を続けながら、現場を支える関係者たちが取り組む、新たな挑戦とは？

「汚い・きつい・危険」の頭文字を取った「3K職場」という社会のマイナスイメージが、いまだに拭えない介護業界では、若手職員の介護離れが深刻だ。給与の安さに加え、出世にもなう大きなキャリアアップが見込めないことも、仕事への意欲を低下させる。そんな中、将来を担う若い介護職員たちの「キャリアモデル」となり、業界内に新たな風を巻き起こす人物がいた。(株)はっぴーライフ代表の辻川泰史さん(35)だ。15年前に福祉の専門学校を卒業し、有料老人ホーム勤務と在宅介護を経験。その後、24歳という若さで独立。三鷹・武蔵野・小金井にデイサービスの事業所を展開し、通所介護・訪問介護・居宅介護支援の3事業を行うと同時に、介護事業コンサルティングも手がける。起業に至った理由には、業界への疑問と不満があった。「2年間、学校で勉強をして資格を取得しても、無資格者と扱いが一緒。モチベーションが下がりましたね。先目の目

標が見えなくなりました」職場の上司が、結婚を機に退社を決めたことも引き金になった。「新人1年目の自分と変わらない給料だと知って、ア然としました。どうして、こんなに安い仕組みなのだろうと」辻川さんはまず、経営感覚を磨くところから始めた。入居者ひとりが施設に入ってきたら単価はいくらか。利益を考えたとき、どれくらいの稼働率で回せばいいのか。突き詰めてみると、利益が十分出せることに気づいた。現在、アルバイトも含めて約50人の事業所で、給与の一番高い職員は月収約40万円。職員の募集をかけ、約500人の応募があった年もあるという。ほかの施設が人手不足に喘ぐ中、なぜ就職を希望する若者たちが集まるのだろうか。「事業所の方針を丁寧にホーム

ページやブログで発信して、共感してくれる人が集まるようにしました」シンプルなり方にも感じているが、福祉・介護業界において、きちんと情報発信をする事業所は少ないという。「最初はブログひとつにして、書くネタがなかった。情報発信する内容をつくるために、実際のサービスも、ほかの事業+αに変えるなど、内部変革を起こしていった」実際に辻川さん自慢のサイトをのぞいてみると業界内では異例とも言える賑やかさ。「情報発信の方法は、面白いYouTube動画をたくさん見て学んだ。僕がホームページで伝えたいことは、利用したい施設に動きたい施設、だということですよ」

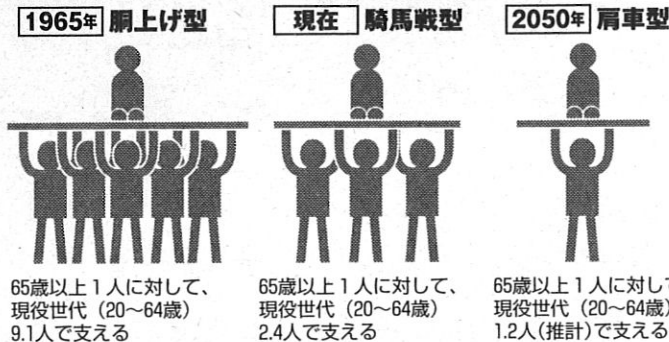
社長自ら、週に1度の職員との個人面談を欠かさない。個々の悩みを把握するためだ。型にはまったマニュアルは決して押しつ



【上】(株)はっぴーライフ代表・辻川泰史さん。スタッフが夢をもてる職場を目指している【右】ホームページでは、実際に働く職員たちをモデルにしたアニメーション動画を流す工夫も



日本の「少子高齢化、はどこまで進むのか……」



\*『政府広報オンライン』を参考に作成

敏夫さんは、「私の施設では3名の在日外国人の方を雇っています。韓国人のパートの方と東南アジアの若手職員2人。長く日本にいる人たちの言葉の壁はありません。報告書などを書くときに筆記が少し難しいようですが……」

利用者の側に抵抗はないのだろうか。「特に外国人職員に対する抵抗はないようです。今後も、日本人、外国人に關係なく介護福祉士の資格取得者に来てほしい」との経済連携協定(EPA)締結により、外国人介護士・看護師が日本の医療・福祉の現場で働くための受け入れ態勢が進められている。これまでにインドネシア、フィリピンからの受け入れ実績があり、現在はベトナムからの候補者受け入れに向け、調整が進められている最中だ。

来日した介護士は半年間の日本語研修の後、現場の施設で働きながら勉強し、介護福祉士の国家試験を受ける。だが、合格した者だけが引き続きの就労を認められ、不合格となれば帰国。勉強期間に研修を受け入れる施設側の負担も大きいという。

福祉現場での勤務経験もある淑徳大学の結城康博准教授は、その取り組みについて、「EPAは公式上、介護士の交流という枠で、労働者として位置づけられていない。もともと3、4年働きのながら稼いだら帰国するつもりで来ている人も少なくない。日本で介護福祉士の資格を取って母国に帰れば、介護関係の通訳もできるわけですからね」

今後の改善点については、「外国人だけ試験を簡単にしてしまうのはよくない。本当は漢字にルビをふる配慮もするべきではないと思う。ただ、受験のチャンスが1回だ

「やっぱり日本人  
だけでは、ダメ？」

「他人事なんて、  
言っていないられない」

施設や職員不足などの問題が指摘される中、在宅介護の可能性を追求するべきとの声もある。数々の現場取材してきた介護ジャーナリストの小山朝子さんに話を聞いた。

「施設に行くほどではない、予備軍にあたる高齢者たちを在宅介護や、地域のネットワークの範囲内で支える体制づくりも、必要だと思います」

核家族化が進み、在宅介護が懸念される。しかし、駆け込み寺があれば、負担は格段に減るといえる。

「施設などで短期間預かってくれるショートステイは介護保険で利用できるサービスですが、何日も前から申し込み

けないという。そんな辻川さんの信念は、「一所懸命」という視点で行う介護ビジネスを広めたい。介護には地域性がとても重要だと思つています。事業所のある地域の人たちには、うちのサービスがあるから安心して在宅介護生活ができる」と思ってもらいたい」

ワンルームマンションから事業をスタートした辻川さん。熱意ある若者には開業を目標してほしいとアドバイス。「今はどこかの施設で技術を磨いていても、将来は自分のやりたい介護分野で独立していけるような図式ができればいい。信念のある若い子を応援したいです」

現在はデイサービスの開設塾も開き若手ホープを送り出すと奮闘する辻川さん。業界に不安はないのだろうか。「不安ですよ。若い世代が介護職員になりたがらなくなってきたのは事実ですから。今後は外国人労働者の育成も必要になるでしょうね……」

辻川さんの事業所でも、2人の外国人職員が働いている。ほかの施設でも数名ずつ外国人職員を雇い、人員を補うことは珍しくないという。東久留米にある社団法人マザアスの施設長・高原

「見守りネットワーク」というサービスを始める自治体が増えてきています。地域の中でキーパーソンを決めて、何かあったら通報が行くような体制です。警察、コンビニ、バスの運転手などにも、あらかじめ対象となる高齢者の情報を教えておきます」

川崎市内のある区では、認知症高齢者がフラフラと外出た際に亡くなった事例を機に、この取り組みが始まったという。

何かあったときに駆けつけられる人、駆け込める場所を地域のセーフティーネットで補う努力が見直されている。「近所付き合いの希薄化が進んで、みんな面倒なことには巻き込まれたくないのが本音。でも、震災をきっかけに少しずつ助け合いの精神が芽生えてきている。少しずつ広がればいいですね」

関係者たちによる地道な奮闘が行われる介護業界。解決までの道りは長い。他人事ではない」という小さな意識の変化が日本の未来を救う目下の対策かもしれない。